

副官ヨリ長野縣學務部長宛回答案
陸務第二三九九號

四月十七日附一。社兵第二一九八號照會ノ件
右ハ工業學校規程第十二條ニ依リ在學ニスル者
ニ付テハ徵集延期ノ資格アルモ其ノ他ハ資格
ナキ儀ト承知相成度

陸普第二三九九號 昭和十年四月廿五日



本縣教育委員陳資各圖スル

昭和十年四月廿五日 陳資各圖

陸軍省領第一二四〇號

昭和十年四月十八日
午後六時
官臣

陸軍省
10.4.19
83

長野縣

一〇社兵第二一九八號

昭和十年四月十七日

長野縣學務部長

陸軍省副官 殿

在學徵集延期ニ關シ疑義ノ件照會

本縣工業學校研究生ノ徵集延期ノ資格ニ關シ疑義相生シ候ニ付何分
ノ御指示相煩度學則及研究生規程相添へ此段及照會候也



保存期限

永久

決裁指定

決行指定

牛島

三 四

政務次官
回付
決裁前
連帶
課名
書記官

審
多
後

決行(決裁)後
回覽課名

受領番
五七一號
起元廳(課)名

徵募課

件名
昭和十年法律第三號施行期日件勅令案關之件

大臣

牛島

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官

官房御用掛

主務課員

審案
筆者

主務局長	受領	提出	受領	了結
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日

連帶局長	決行(決裁)後回覽局長
------	-------------

長課	長課
----	----

陸軍省

閣議請議案
首題勅令案別紙、通理由書相添へ
閣議ヲ請フ

陸普第一五八六號

昭和十年三月廿六日

備考

本勅令案兵役法施行令中改正勅令案ト同時ニ

閣議ヲ請ハレ度

右ト同時ニ

次官ヨリ海軍次官へ通牒案

別紙首題勅令案ニ関シ閣議ヲ請ハレタルニ

付承知相成度

陸普第一五八六號

昭和十年三月廿六日

昭和十年法律第二十二號施行期日ノ件勅令案

朕昭和十年法律第二十二號兵役法中改正法律施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年三月二十九日

内閣總理大臣

陸軍大臣

海軍大臣

勅令第三十九號

昭和十年法律第二十二號ハ昭和十年四月十一日ヨリ之ヲ施行ス

保存期限

永久

決裁指定

決行指定

牛島

三 五

政務次官回付
參與官回付

決裁前後連帶
課名

軍事課

陸軍省
0.4.12
課

永久
甲

受番
領號

陸軍省
領號

八四〇號

起元應(課)名

全國徵兵事務狀況件
徵募課

大臣

牛島

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官

官房御用掛

主務課員

審案
筆記者

主務局長

號番

軍機第四四號

領受

昭和十年四月廿二日

提出

昭和十年四月廿二日

領受

昭和十年四月廿三日

了結

昭和十年五月六日

連帶

局長

局長

課長

課長

決行後
行回
(裁決)覽

陸

軍

上奏案

昭和九年ニ於ケル全國徵兵事務狀況別紙
ノ通謹ニテ上奏ス

昭和十年四月廿五日

右同時ニ大臣ヨリ内閣總理大臣ニ報告案

陸密

昭和九年ニ於ケル全國徵兵事務狀況別
紙ノ通報告ス

陸密第二九〇號 昭和十年四月廿五日

六會

文

昭和九年全國徵兵事務狀況

昭和九年ニ於ケル徵兵事務ハ概シテ良好ノ成績ヲ以テ終了セリ其ノ概況左ノ如シ

一 昭和九年徵兵検査ヲ行ヒタル壯丁ハ八十三万三千四百二十九名（前年終決處分未済者十七万三千二百二十九名）ニシテ之ヲ昭和八年ニ比スレハ一万八千二百三名ヲ増加セリ

二 配賦シタル要員ハ

陸軍現役兵

十二万六千八十四名

同 第一補充兵

十八万一千七百四十六名

海軍現役兵

一万一千十五名

ニシテ其ノ全部ヲ充足スルコトヲ得タリ

三 壯丁ノ體格ハ概シテ良好ナリ而シテ平均身長一・六〇三米、平均體重五二・九九四斤ヲ示シ之ヲ昭和八年ニ比較スレハ平均身長ニ於テ一耗、平均體重ニ於テ百七十八瓦ヲ増加セリ

四 壯丁ノ教育程度ハ逐年向上シツツアルモ全然讀書算術ヲ爲シ得サル者尙千名ニ付三・八名（昭和七年度四名、昭和八年度三名）ヲ算ス

五 壯丁ノ兵役義務心ハ一般ニ良好ナルモ兵役忌避者及其ノ疑アル者ノ總數四百十七名ヲ算シ昭和八年ニ比シ百十一名ヲ増加セシ更ニ兵役義務心ノ徹底ヲ圖ランコトヲ期ス

ニシテ其ノ全部ヲ充足スルコトヲ得タリ

三 壯丁ノ體格ハ概シテ良好ナリ而シテ平均身長一・六〇三米、平均體重五二・九九四斤ヲ示シ之ヲ昭和八年ニ比較スレハ平均身長ニ於テ一耗、平均體重ニ於テ百七十八瓦ヲ増加セリ

四 壯丁ノ教育程度ハ逐年向上シツツアルモ全然讀書算術ヲ爲シ得サル者尙千名ニ付三・八名（昭和七年度四名）ヲ算ス

五 壯丁ノ兵役義務心ハ一般ニ良好ナルモ兵役忌避者及其ノ疑アル者ノ總數四百十七名ヲ算シ昭和八年ニ比シ百十一名ヲ増加セシ更ニ兵役義務心ノ徹底ヲ圖ランコトヲ期ス

三

閣

決行指定

決裁指定

永久

陸軍省
10.5.13

陸軍省
10.5.7
課事醫

陸軍省
10.5.2
68
補任課

陸軍省
10.4.22
馬政課

陸軍省
10.4.19
防備課

陸軍省
10.4.25

陸軍省
10.4.22
第88號
銃砲課

永久
永久
永久

陸軍省
10.5.14
第907號
課務局

陸軍省
10.5.25
監査課

陸軍省
10.4.23
第17號
器材課

兵役法中改正法律案二箇件

徵募

三〇二號

陸軍省

受領

番

件名

大臣

軍部第一六號

昭和三十二年二月二十日

昭和三十二年二月二十日

昭和三十二年二月二十日

局長

次官

政務次官

主務課長

高級副官

參與官

課長

主務課員

官房御用掛

主務副官

10.5.18

14.25

10.4.25

10.4.23

了結	領受	出提	領受	號番	大臣	件名	番	受領
昭和三十二年二月二十日	昭和三十二年二月二十日	昭和三十二年二月二十日	昭和三十二年二月二十日	軍部第一六號	局長	兵役法中改正法律案二箇件	陸軍省	三〇二號
局長	局長	局長	局長	局長	次官	政務次官	政務次官	政務次官
局長	局長	局長	局長	局長	高級副官	參與官	參與官	參與官
局長	局長	局長	局長	局長	主務課長	主務課員	主務課員	主務課員
局長	局長	局長	局長	局長	官房御用掛	官房御用掛	官房御用掛	官房御用掛
局長	局長	局長	局長	局長	主務副官	主務副官	主務副官	主務副官

大臣 米官ヨリ参謀^{總長}米長、教育總監部~~米~~部長、
印務~~米~~官、海軍~~米~~官、其部~~米~~官、拓務~~米~~官、
宛照會案

陸普第八〇九號

別紙兵役法中改正法律案ニ関シ至急御意
見承リ度

陸普第八〇九號 昭和十年二月廿日

(右異存ナキ回答アリタル後)

閣議請議案

陸普第八五八號

兵役法中別紙法律案ノ通改正致度理由

書相添へ閣議ヲ請フ

昭和十年二月廿二日

陸軍大臣

陸普第八五八號

昭和十年二月廿二日

右ト同時ニ

次官ヨリ内務次官、海軍次官、文部次官、

拓務次官宛通牒案

別紙兵役法中改正法律案関シ閣議ヲ請ハレ

タルニ付御意見有之候ハ直接内閣法制局

へ申出テラルコトト致度

陸普第八五八號

昭和十年二月廿二日

兵役法中改正法律案

昭和一〇、一一、一九
徵募課

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル兵役法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

御名 御璽

昭和十年三月二十九日

内閣總理大臣

陸軍大臣

海軍大臣

法律第三十二號

兵役法中左ノ通改正ス

第十一條 現役兵ニシテ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル

課程ヲ修メタル者ノ在營期間ハ六月以内之ヲ短縮スルコトヲ得
前項ニ規定スル課程ノ修得ノ程度、認定及在營期間短縮ニ關スル
事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條中「翌年一月中旬ニ」ヲ「其ノ年十一月中旬ニ」ニ、
「其ノ年一月中旬ニ」ヲ「其ノ前年十一月中旬ニ」ニ改ム

第三十九條第一項第五號中「感化院」ヲ「少年教護院」ニ改ム

第五十一條第一項中「徴兵検査ヲ行フ」ノ下ニ「戸籍ノ記載ノ錯誤
ノ爲徴兵検査ヲ受クベキ者ニシテ之ヲ受ケザリシ者ヲ發見シタルト
キ亦同ジ」ヲ加フ

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十一條ノ改正規定及附則第二

項ノ規定ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認ムル訓練ヲ修了シタル者ノ
在營期間短縮ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

兵役法中改正法律案改正理由書

青年訓練所ト實業補習學校ヲ併合シ新ニ設ケラルル青年學校ノ課程ヲ修メタル者ノ在營期間短縮ニ付規定スルノ必要アルト、徵兵適齡屆ヲ市町村長ノ行フ壯丁人員調査以前ニ提出セシムル必要アルト等ニ由リ兵役法中一部改正ノ要アリ

之本案ヲ提出スル所以ナリ

貳 第三〇二號 其一

不詳 疾日第 二 部ノ五



陸軍

兵役法中改正法律案ニ關スル件回答

昭和十年二月二十二日

參謀總長 載 仁 親 王

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿



首題ノ件ニ關シ二月二十日陸普第八〇九號ヲ以テ照會ノ趣異存ナシ



至急

武部三〇二號其二



陸軍

教庶第三二八號

兵役法中改正法律案ニ關スル件回答

昭和十年二月廿二日

教育總監眞崎甚三郎



陸軍大臣 林銑十郎殿

昭和十年二月二十六日陸普第八〇九號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件當方

異存無之ニ付承知相成度

保存期限

永久

決裁指定

局長委任

決行指定

牛島

七三

政務次官
參與官
回付
決裁
前後
連帶
課名

決行(決裁)後
回(課)課名

永中

受領番
肆第八六七號

起元廳(課)名

第九師團

件名

兵役法施行令第七條志願現役兵取扱關之件

大臣

委

次官

委

高級副官

牛島

主務副官
官房御用掛

主務課員

審案

筆記者

主務局長

主務局長

主務課長

主務課長

主務課員

主務課員

主務課員

軍機第三二號

主務局

昭和三十二年五月十五日

連帶

局長

課長

課局

昭和三十二年五月十五日

決行後

局長

課長

大臣官房

昭和三十二年五月十五日

決行後

局長

課長

了結

昭和三十二年五月十五日

決行後

局長

課長

左

右

副官ヨリ第九師團參謀長宛回答案

陸普

五月九日附九師徵第一二二號首題照會
件 貴見解、通下承知相成度

陸普第二七九一號

昭和十年五月十五日



陸普第二七九一號 昭和十年五月十五日

本致電稿本... 陸普第二七九一號

陸普

陸普

副官ヨリ第九師團參謀長宛回答案

陸普

五月九日附九師徵第一二二號首題照會
件 貴見解、通下承知相成度

陸普第二七九一號

昭和十年五月十五日



陸軍省 陸軍部 第九師團 參謀長 宛
昭和十年五月九日 陸普第二七九一號

陸軍省 陸軍部 第九師團 參謀長 宛
昭和十年五月九日 陸普第二七九一號

陸普

陸普

陸軍省領肆第八六七一

九師徵第一二五號



兵役法施行令第七條志願現役兵
ノ取扱ハ因テル件照人會

昭和拾年五月九日

第九師團參謀長國崎



陸軍省副官牛島滿殿

兵役法施行令第七條志願現役
兵ニシテ在營一年二月ニテ現役免除ト
ナリ本年適齡トナル者アリ右ノ者ニ對
シテハ徵兵檢査ヲ行フ限ラズト思惟ス
ルニ聊カ疑義アリ何方ノ義回示相忝度



第七師團長へ達案（電報案）

陸

五月三十日七副一三。申請ノ

件申請ノ通在營ヲ延期

セシムベシ

陸一五五

昭和十年五月卅一日

抄本部行大監案ノ旨有部ノ裁可ナリ
轉送ノ六日候ニ付
陸軍省
陸軍部

軍領肆第 九六四號



第 號

電報譯

五月 日 午前 午後

三時 四分 著

陸軍大臣

宛

發信者

第七師團長

七副一三〇

五月三十日步兵第... 聯隊第... 二連... 流石... 休隊... 間在官延期致... 度... 申請... 至急電報指令了度

陸軍電信著信紙

文	本	定指	受信人名	局發	局著
	<p>七フク一三〇、五ツキ三〇ヒホヘイダ <small>流神道習巻腰を患ふ一名を尋ねし</small> アコリサミカスト一メイハツセイセシ <small>ルモノウチハツセイチウタイノモノニ四メイニカギ</small> イエイオエンキイタシタキニツキシンセイヌ <small>イニチウタイニ</small> ヨタイセシム</p>	至急		至急官 一四八 アサヒガ ワシダン、四六 コ三時四五分	二九 午 時 マ
		事記			

注意

交付當日受信セシモノハ月日ヲ記入セズ
 受付時刻ノ表示中「ト」アルハ午時「ラ」トアルハ午後ヲ示ス



陸軍省

衛生
北野

主計

陸軍

徵募

陸

第九百四十七號

副甲第 八五號

陸軍省
10.6.13
19

陸軍省
10.6.13
19

陸軍省
10.6.13
19

陸

陸軍省
10.6.13
19

一、關於五月廿三日

第七師團長杉原美代太郎

陸軍大臣林銑十郎殿

五月三十日電報申請
衛生概況別紙、通二付報告書

流行性腦脊髓膜炎發生概況之報告書

陸軍省
10.6.13
19

陸軍省
10.6.13
19

6.5

九三

永久
局長
委任
決裁指定
保存期限

政務次官
參與官
回付
決裁前後
連帶
課名

永久
甲
三
行

決行(決裁)後
回覽
課名

受番
領號

壹第七一七號

起元應(課)名

北海道虻田郡尻岸内村

件名

兵事々務取扱ニ関スル件

大臣

委

委

政務
次官

參與官

書記官

審案
筆記者

主務
局長

高級
副官

主務
課長

主務副官

官房
主務課員

主務局
受領
提出

昭和十年六月一日

軍機第一二〇號

大臣官房
受領
了結

昭和十年六月一日

決行(決裁)後
回覽

局長

局長

課長

課長

主

事

副官ヨリ北海道亀田郡尻岸内村
長宛回答案（第七師團司令部經由）

陸普

五月二十九日附ヲ以テ首題御照
會ノ件右ハ一、二、共貴見解ノ
通ト承知相成度

陸普第三一七三號 昭和十年六月四日

陸普
第五
第八

兵部省
陸軍部
第一七三號



字



陸軍省 第一七二七



昭和十年五月二十九日

北海道亀田郡尻内村長嶺和衛

陸軍省副官殿

兵事々務取扱ニ関スル件ニ稟伺

標記ノ作在記疑義有之候條折返之付分御
田示相燭之度此段稟伺候也

記

前年迄第四十一條ニ依リ徵集延期セラレタル者本年

四月十五日迄ニ規則第三百二十二條ノ轉校届出ア

タル際ハ(本付)入學証明書ニ依リ正學ノ事實ヲ知リ得トシ

規則第三百十七條ノ正學證明書ヲ提出セサルモ可ナラ

ト思料ス百二十二條ノ轉校届出ニ入學證明書ハ

陸軍省 第一七二七

二規則第三百二十二條、轉校届ニハ入學證明書ノ

添付ニ要スルハキ處別紙左學證明書ヲ添付シ来

ルモ内容ハ入學證明書ト目トニ付受理差支

ナキモト下恩料不匯案三百二十二條ノ轉校届出

別紙) 左學證明書

一本人ノ本籍地、氏名、生年月日 (省界)

一本人ノ屬スル學科 (省界)

一入學年月日 昭和六年四月十日 北海道函館商船

一本人修學概況 學校(入學昭和十年四月)本校(轉校

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

一卒業予想年月日 昭和十一年三月二十四日

昭和十年四月四日 函山縣 鬼島商船學校長

保存期限

永久

決裁指定

決行指定

牛島

〇四

政務次官回付

決裁前後連帶

書記官

決行(決裁)後
回覽課名

永久甲之紋

受領番號

陸軍省 第一〇二九號

起元應(課名)

徵募課

件名

兵役法第七十三條規定之依儿學校指定ノ件

大臣

牛島

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官

審案

筆記者

主務課員

官房御用掛

主務號

軍機第六〇號

受領

昭和十年五月二十一日

提出

昭和十年五月二十一日

大臣受領

昭和十年五月二十一日

大臣受領

昭和十年五月二十一日

連帶

局長

課長

局長

課長

決行(決裁)後
回覽

局長

課長

主

官

昭和三年^{第三}陸軍省告示第十號ハ兵役法第七十三條及兵役法施行令第三百三十九條ハ規定ニ依リ指定スル學校ノ件ナリ

陸軍省告示第十號ニ依リ青平學校
陸軍省告示第十號ニ依リ山陽東州及南越
陸軍省告示第十號ニ依リ天草日本商業學校及三

昭和十年六月三日 陸軍大臣

通如五ノ

昭和三年 陸軍省告示第十號中一併ノ
陸軍省告示第十號ニ依リ

關

省 部

文 徵募

式 第一〇二九號

官社三九號

昭和十年五月三十日

文部大臣 松田源治

陸軍大臣 林銑十郎 殿

兵役法第七十三條ノ規定ニ依ル學校指定ノ件

本年五月二十一日陸普第二八八二號ヲ以テ照會有之タル標記ノ件異存
無之此段回答ス



貳 第一〇三九號其一

陸軍省
昭和十一年五月二十四日
午後十時十分發
官

陸軍省
10.5.24
第60號
發

1029

第五號

電報譯 五月廿四日午前十一時五分發

大臣 宛 發信者 全權大使

五月二十一日陸第一四一號御電照、關東洲州及南
滿洲鐵道附屬地ニ於テ青年學校ヲ兵役法第七十
三條ノ規定ニヨリ指定ノ件異存ナシ

徵募

大

陸軍省

貳 第一〇二九號其一



第五號



1029

徵募

大臣

電報譯 五月廿四日午前十一時五十分發

大臣 宛 發信者 全權大使

五月二十一日陸第一四一號御電照、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於テ青年學校ヲ其役法第七十三條ノ規定ニヨリ指定ノ件異存ナシ

陸軍省

陸軍電信著信紙

注意

受付當日受信セシモノハ月日ヲ記入セズ
 受付時刻ノ表示中「ヨ」トアルハ午後「ウ」トアルハ午後ヲ示ス

文	本	指	定	受信人姓名	局發	局
	五ツキニーヒリクダ シウテツド キテイニヨリシテイノケンイヅ シウテツド ウフヅ クチニオケルセイネンガ クコウヨヘイエキホウタイセ七三ゼ ウノ			リクグ ン ダ イ ジ ン	官 一〇八 シンケウ 五〇八 セー〇時二二分	六 時 〇 分
				事記		

陸軍省
 10.5.24
 所収取信電

附日
 陸軍省
 10.5.24
 所収取信電

保存期限

永久

決裁指定



決行指定



政務次官 回付 決裁前連帶
參與官 決裁後課名



後



決裁後課名

軍省



件名 昭和十年度後期入会員中老年少者ノ課程修得者
檢定ニ関スル件

起元題(課)名

徵募簿

審案 筆記者

書記官

參與官

政務次官

大臣

次官

高級副官

主務副官

主務局長

主務課長

主務課員

主務局長

連帶局長

課長

大臣官房

受領

昭和 年 月 日

提出

昭和 年 月 日

了結

昭和 年 月 日

決行後(裁決)覽

局長

課長

主任

主任

軍省第六九號



副官 第十九等二十師 陸軍部 參謀長
宛内報案

陸普

古年學校、課程及之卜同等以上卜認定シタル課程ヲ
修得シタル者ノ取扱ニ關スル諸法現ニ在月
九日迄ニハ夫々發令ヲ見ル等十九モ本年後期入學
者中四月一日以後ニ於テ古年學校ノ課程又ニ之卜同
等以上卜認定シタル課程 (別紙參考) 参考ノコト
以下同シ) ヲ受ケタル者ニ對シテハ左記ニ依リ假檢定
ヲ實施シ遣キ諸法令發令後終極處分ヲ實施セラ
レ度依令卜通案ス



追々在平三月三十一日以前に於て從來ノ去年訓導
所ノ課程又ハ之ト同等以上ト認定シタル課程ヲ修
メタルノミニシテ四月一日以降に於て右ノ年ヲ修
メタルノ課程又ハ之ト同等以上ト認定シタル課程ヲ
修メタル者ニ對シテハ從前ノ規定ヲ適用スル
モノナルヲ以テ右ノ旨申添フ

左記 陸普第三一七五號 昭和十年六月四日

一 假檢定ヲ實施スル者左ノ如シ

- (一) 別紙參考第一條第二陸軍省令案第五十二條ノ二
第二號乃至第五号及第七号ノ後者ニシテ者
- (二) 別紙參考第三條ノ一者先示案ニ後者ニシテ者

二 検査ノ方法

從來ノ検査ノ方法及古年訓練終了者ノ検査ノ規

定ヲ導用シ検査ノ実施ニ関スル事ヲ定メ

三 課程修得ニ関スル証明

古年訓練終了証(或ハ証明書)ヲ有セザル者ト

シテ古年訓練手帳及本人ニ付テハ調査シ前

記ノ一子ニ該当スル者ト對シテハ假検査ヲ實

施シ其ノ假合格者ト對シテハ部隊ヨリ

直接古年番号検査(古年訓練所主事)

ニ各科ヨリ修得時數(専任校長(官中))

ニ於テ免除セリ時數ヲ明ナラセムコトヲ設

課程ヲ修得ニタル期間ノ証明ヲ要求
シ得候ナキヲ破メタル後合格ト爲
スモノトス

別紙参考第一

兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依ル
認定ニ關スル件

陸軍省令第 號

兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件左ノ通
定ム

昭和 年 月 日

陸 軍 大 臣

文 部 大 臣

第一條 左ノ各號ニ掲グルモノハ青年學校ノ課程ト同等以上ト認ム
ル課程トス

一 地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ノ課程ト認メタル
課程

二 昭和四年朝鮮總督府令第八十九號青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程（同規程第十三條第二項ノ規定ニ依ルモノヲ除ク）及同規程第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程

三 昭和六年臺灣總督府令第七十三號ニ依ル公立ノ青年訓練施設ノ課程及臺灣總督ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程

四 滿洲國駐劄特命全權大使又ハ關東州廳長官ニ於テ昭和十年勅令第九十一號ニ依ル青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程

五 樺太青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程及同規程第九條ノ規定ニ依リ樺太廳長官ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程

六 現役將校ヲ配屬シタル學校ノ課程

七 現役將校ヲ配屬セザル官立又ハ公立ノ商船專門學校及商船學

校ノ課程

八 陸軍大臣及文部大臣ニ於テ指定シタル學校ノ課程

第二條 前條各號ニ掲グル課程中地方長官、朝鮮總督、臺灣總督、

滿洲國駐劄特命全權大使、關東州團長官又ハ樺太廳長官ニ於テ認定シタルモノハ其ノ認定ニ關シ課程ノ認定ヲ受ケタル學校所在地所管ノ師團長、臺灣軍司令官又ハ關東軍司令官ニ協議シタルモノタルベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

青年學校令施行前ニ於テ青年訓練所規程第八條ノ規定ニ依リ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ハ之ヲ本令第一條第一號

ニ掲グル課程ト看做ス

昭和十年勅令第九十一號施行前ニ於テ關東州及南滿洲鐵道附屬地青年訓練所規則第八條ノ規定ニ依リ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ハ之ヲ本令第一條第四號ニ掲グル課程ト看做ス

別紙參考第二

陸軍省令第 號

兵役法施行規則中左ノ通改正ス

昭和十年六月 日

陸軍大臣 林 銑十郎

目次第四編第十六章中「第四款 青年訓練^修了者及在外部隊入營者ノ特別心得」ヲ「第四款 青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル者及在外部隊入營者ノ特別心得」ニ改ム

第十四條中「青年訓練修了者」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル者」ニ改ム

第五十二條ノ二 法第十一條ノ規定ニ依ル在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ノ修得程度左ノ

如シ

一 青年學校ノ本科又ハ本科及研究科ニ四年以上在學シ其ノ課程ニ付修身及公民科百時、普通學科及職業科ヲ通ジ二百五十時、教練科三百五十時以上ヲ修メタルコト

二 地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程、昭和四年朝鮮總督府令第八十九號青年訓練所規程第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ於テ同規程ニ依ル青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メタル課程、滿洲國駐劄特命全權大使若ハ關東州廳長官ニ於テ昭和十年勅令第九十一號ニ依ル青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程又ハ樺太青年訓練所規程第九條ノ規定ニ依リ樺太廳長官ニ於テ同規程ニ依ル青年訓練所ノ課程ト同等以上

ト認メタル課程ヲ年齢十四年（毎年三月三十一日ヲ基準トス）以上ニ於テ四學年以上ヲ修了シ教練三百五十時以上ヲ修メタルコト

三 昭和四年朝鮮總督府令第八十九號青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程（同規程第十三條第二項ノ規定ニ依ルモノヲ除ク）、昭和六年臺灣總督府令第七十三號ニ依ル公立ノ青年訓練施設ノ課程若ハ臺灣總督ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程又ハ樺太青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程ニ付概ネ四年以上訓練ヲ受ケ修身及公民科百時、普通學科及職業科ヲ通ジ二百五十時、教練科三百五十時以上ヲ修メタルコト

四 現役將校ヲ配屬シタル尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル

學校ノ第四學年（高等小學校第二學年修了程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第二學年其ノ他之ニ準ズ）修了程度以上ノ敎練ヲ修メタルコト

五 現役將校ヲ配屬セザル尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル公立商船學校ノ第四學年（高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第二學年其ノ他之ニ準ズ）修了程度以上ノ課程ヲ修メタルコト

六 陸軍大臣及文部大臣ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上トシテ指定シタル學校ニ付陸軍大臣ニ於テ告示シタル程度ノ課程ヲ修メタルコト

七 前各號ニ掲グル課程ニ付其ノ二以上ノ課程ヲ修メタル期間ヲ

通算シ概ネ四年以上ニ達シ其ノ間ニ於テ第一號ノ科目ニ該當ス
ル科目ニ付各同號ニ規定スル時數以上ヲ修メタルコト

第五十二條ノ三 前條ニ規定スル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ
在營期間ヲ短縮セラルベキ者ハ當該課程ノ修得ニ關シ學校長又ハ
之ニ準ズベキ者ノ署名捺印シタル證明書ヲ有スル者タルコトヲ要
ス但シ前條第四號ノ教練ヲ修メタル者ニ付テハ當該學校ニ配屬ノ
將校ノ署名捺印シタルモノトス

第七十四條様式中青年訓練又ハ學校教練ノ程度ノ項ヲ左ノ如ク改ム

青年學校ノ課程
若ハ之ト同等以
上ト認ムル課程
又ハ學校教練ヲ
修メタル程度

何青年學校ニ於テ第何年次ノ課程ヲ修業中又ハ何中學校卒
業ノ際學校教練ノ檢定ニ合格目下何校ニ於テ引續キ修業中
ニシテ現ニ學校教練ヲ受ケアリ等（青年學校
ノ課程若ハ之ト同等以上ト認ムル課程若ハ學校
教練ヲ修メザル者又ハ其ノ修得ヲ中止シタル者ニ在リテハ
其ノ旨ヲ記ス）

第九十三條第三號、同條第四號(ト)號(四)號及第一百五十九條第二項第五號中「青年訓練所ノ訓練若ハ之ト同等以上ト認ムル訓練ヲ修了シ又ハ之ヲ修了スベキ見込アル者」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者又ハ修得スベキ見込アル者」ニ改ム

第一百七條中「青年訓練手帳」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程修得ニ關スル證明書」ニ改ム

第一百四十條第一項第五號中「青年訓練ヲ受ケザル者」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メザル者」ニ改ム

第二百三十條第一號樣式中「青年訓練ノ概況」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程修得ノ概況」ニ「青年訓練所在所間

「青年學校在校間」ニ改メ「青年訓練手帳ニ記載シアラザル事項ニシテ」ヲ削ル

「第四款 青年訓練修了者及在外部隊入營者ノ特別心得」ヲ「第四款 青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル者及在外部隊入營者ノ特別心得」ニ改ム

第二百五十條第一號ヲ左ノ如ク改メ第二號及第四號ヲ削リ第三號ヲ第二號ニ改ム

一 青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定ムル程度ノ課程ヲ修得シタル者ハ其ノ證明書

附錄第二様式其ノ一註記第十七號中「青年訓練修了見込ノ者」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定メ

タル程度ノ課程ヲ修得シタル者又ハ修得スベキ見込アル者」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認メラレタル訓練
ヲ修了シタル者ノ取扱ハ仍從前ノ規定ニ依ル

青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修ムル以前ニ於テ
青年訓練所若ハ昭和二年勅令第三百三十八號ニ依ル關東州及南滿州鐵
道附屬地ニ於ケル青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認ムル訓練
ヲ受ケタル者ノ當該訓練期間及訓練時數並ニ昭和十年陸軍省令第一
號ニ依リ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ同令
公布以前ニ修得シタル者ノ當該修得期間及時數ハ之ヲ第五十二條ノ

二ニ規定スル期間及時數ニ通算ス

昭和十年三月三十一日ニ於テ年齢十五年以上ノ者ニシテ青年學校ノ
本科又ハ研究科ニ入學スルモノ竝ニ昭和十年三月三十一日ニ於テ年齢
十七年以上ノ者ニシテ實業補習學校後期卒業者及尋常小學校卒業程
度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年修了程度（高等小學校卒業
程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年修了程度其ノ他之ニ
準ズ）以上ノ學力アル者ノ中第五十二條ノ二第三號又ハ第七號ニ規
定スル課程ヲ修ムルモノニ付テハ第五十二條ノ二ニ規定スル課程修得ノ程
度ニ關シ別ニ之ヲ告示ス

別紙参考第三

陸軍省告示

昭和十年 月 日 陸軍省令第

號(別紙参考第二

参照) 附則第四項の規定スル者ノ青年學校ニ於ケル
 課程ノ修得程度ニ関シテハ兵役法施行規則(以下規
 則ト稱ス) 第五十二條ノニニ掲クル時數ニ拘ラズ左
 ノ各號ニ依ルモノトス但シ年齡十六年(年齡ノ計算
 ハ昭和十年三月三十一日トス以下同ジ) 以上ノ者ノ
 課程ヲ修得シタル期間ハ概ネ四年トス
 一 年齡十五年以上十六年未満ノ者ニシテ規則第五
 十二條ノニ第一号及第七号ノ規程ニ該当スルモ

- 修身及公民科 九十時
 - 普通學科及職業科 二百三十時
 - 教練科 三百三十時
- 二 年齡十六年以上ノ者ニシテ規則第五十二條ノニ

第一及第七号ノ規定ニ該当スルモノ

修身及公民科 八十時

普通學科及職業科 二百時

教練科 三百時

但シ実業補習學校後期卒業者及尋常小學校卒業
程度ヲ入学資格トスル中等學校ノ第三学年修了
程度一高等小學校卒業程度ヲ入学資格トスル學
校ニ在リテハ第一学年修了程度其ノ他之ニ準ス
以上ノ學力アル者ニシテ年齢十七年以上ノ者ニ
在リテハ普通學科及職業科ヲ通シ百時、十八年
以上ノ者ニ在リテハ普通學科及職業科ヲ通シ百
五十時、十九年以上ノ者ニ在リテハ普通學科及職
業科ヲ通シ二百時以内ヲ免除ス
規則第五十二條ノ二三號ニ規程スル課程ヲ修
メタル者ニシテ実業補習學校後期卒業者及尋常

三

小學校卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第
三學年修了程度ハ高等小學校卒業程度ヲ入學資
格トスル學校ニ在リテハ第一學年修了程度其ノ
他之ニ準ズル以上ノ學力アル者ニシテ年齡十七
年以上ノ者ニ在リテハ規則第五十二條ノ二第三
號及第七號ニ掲グル時數中普通學科及職業科ヲ
通ジ百時、十八年以上ノ者ニ在リテハ規則第五
十二條ノ二第三號及第七號ニ掲グル時數中普通
學科職業科ヲ通ジ百五十時、十九年以上ノ者ニ
在リテハ規則第五十二條ノ二第三號及第七號ニ
掲グル時數中普通學科及職業科ヲ通ジ二百五十
時以内ヲ免除ス

保存期限

永久

決裁指定



決行指定



二四第

政務次官回付 決裁前後連帶課名 軍事事務局員

永久甲之終

決行(決裁)後 回覽課名

軍事

受領番號

陸軍省

第一二六〇號

起元廳(課)名

徵募課

件名

青年學校ノ課程ノ修得程度ニ関スル件

大臣委

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官

主務課員

審案 筆記者

審案

主務局番號

軍機第云八號

受領

昭和 年 月 日

提出

昭和 十年 六月 六 日

受領

昭和 年 月 日

大臣官房

昭和 年 月 日

連帶局長

局長

課長

課長

課長

課長

課長

課長

陸軍

告示案

陸軍省告示第

陸軍省告示第二十七號

六月十日官報掲載

昭和十年六月八日陸軍省令第六號附則第四項ニ
規定スル者ノ青年學校ノ課程又ハ之ト同等ト認ムル
課程ノ修得程度、關シテハ兵役法施行規則第五
十二條ノ二ニ掲ケル時數ニ拘ラズ左ノ各號ニ依ルモ
ノトス

官報照會

昭和十年六月十日

陸軍大臣 林 銑十郎

一 年齢十五年以上、年齢ノ計算ハ昭和十年三月三十一日トス以下同ジ以上十六年未滿ノ者ノ兵役法施行規則(以下規則ト稱ス)第五十二條ノ二第一號又ハ第七號(規則第五十二條ノ二第一號ニ規定スル課程ヲ修メタル期間ヲ通算スル場合)ニ規定スル課程ノ修得程度左ノ如シ

修身及公民科

九十時以上

普通學科及職業科ヲ通ジ

二百三十時以上

教練科

三百三十時以上

二 年齢十六年以上ノ者(課程ヲ修得シタル期間ハ概ネ四年トス)ノ規則第五十二條ノ二第一號又ハ第七號(規則第五十二條ノ二第一號ニ規定スル課程ヲ修メタル期間ヲ通算スル場合)ニ規定スル課程ノ修得程度左ノ如シ

修身及公民科

八十時以上

普通學科及職業科ヲ通ジ

二百時以上

教練科

前項規定スル普通學科及職業科ヲ通ジ二百時中

三百時以上

實業補習學校後期卒業者及尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年修了程度

(高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ノ第三學年修了程度

テハ第一學年修了程度其ノ他之ニ準ズ)以上ノ學

力アル者ニシテ年齡十七年以上ノ者ニ在リテハ

通學科及職業科ヲ通ジ百時以上ノ者ニ在リテハ

リテハ普通學科及職業科ヲ通ジ百五十時以上ノ者ニ在

以上ノ者ニ在リテハ普通學科及職業科ヲ通ジ二百

時以内ヲ免除ス

三 規則第五十二條ノ二第三號ニ規定スル課程ヲ修

了程度一高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル

者ハ中等學校後期卒業者及尋常小學校

卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年

修了程度一高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル

者ハ中等學校後期卒業者及尋常小學校

卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年

修了程度一高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル

者ハ中等學校後期卒業者及尋常小學校

卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年

修了程度一高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル

者ハ中等學校後期卒業者及尋常小學校

卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年

修了程度一高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル

者ハ中等學校後期卒業者及尋常小學校

卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年

學校之在リテハ第一學年修了程度其ノ他之ニ準ズ
以上ノ學カアル者 海峽北地 年齢十七年以上ノ者
規則第五十二條ノニ第三號又ハ第七號ノ規
則第五十一條ノニ第三號ニ規定スル課程ヲ修メ
ル者ノニ限ル以下同シニ掲ケル時數中普通學科
及職業科ヲ通シ二百五十時中百時以上ノモ、ニ在リテハ十八年以上ノモ、ニ在リテハ以上ノ者ニ在リテハ
規則第五十二條ノニ第三號又ハ第七號ノ掲ケル時
數中普通學科及職業科ヲ通シ百五十時以内十九年以上ノモ、ニ在リテハ以上ノ者ニ在リテハ規則第五十二條ノニ第三號又ハ第七
號ノ掲ケル時數中普通學科及職業科ヲ通シ二百
五十時以内ヲ免除ス

参考

陸軍省令第

號

兵役法施行規則中左ノ通改正ス

昭和十年六月 日

陸軍大臣 林 銑十郎

目次第四編第十六章中「第四款 青年訓練^修了者及在外部隊入營者ノ特別心得」ヲ「第四款 青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル者及在外部隊入營者ノ特別心得」ニ改ム

第十四條中「青年訓練修了者」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル者」ニ改ム

第五十二條ノ二 法第十一條ノ規定ニ依ル在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ノ修得程度左ノ

如シ

一 青年學校ノ本科又ハ本科及研究科ニ四年以上在學シ其ノ課程ニ付修身及公民科百時、普通學科及職業科ヲ通ジ二百五十時、教練科三百五十時以上ヲ修メタルコト

二 地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程、昭和四年朝鮮總督府令第八十九號青年訓練所規程第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ於テ同規程ニ依ル青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メタル課程、滿洲國駐劄特命全權大使若ハ關東州廳長官ニ於テ昭和十年勅令第九十一號ニ依ル青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程又ハ樺太青年訓練所規程第九條ノ規定ニ依リ樺太廳長官ニ於テ同規程ニ依ル青年訓練所ノ課程ト同等以上

ト認メタル課程ヲ年齢十四年（毎年三月三十一日ヲ基準トス）
以上ニ於テ四學年以上[○]修了シ教練三百五十時以上ヲ修メタル
コト

三 昭和四年朝鮮總督府令第八十九號青年訓練所規程ニ依ル青年
訓練所ノ課程（同規程第十三條第二項ノ規定ニ依ルモノヲ除ク
）、昭和六年臺灣總督府令第七十三號ニ依ル公立ノ青年訓練施
設ノ課程若ハ臺灣總督ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程又ハ
樺太青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程ニ付概ネ四年以上
訓練ヲ受ケ修身及公民科百時、普通學科及職業科ヲ通ジ二百五
十時、教練科三百五十時以上ヲ修メタルコト

四 現役將校ヲ配屬シタル尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル

444
學校ノ第四學年（高等小學校第二學年）修了程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第二學年其ノ他之ニ準ズ一修了程度以上ノ教練ヲ修メタルコト

五 現役將校ヲ配屬セザル尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル公立商船學校ノ第四學年（高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第二學年其ノ他之ニ準ズ一修了程度以上ノ課程ヲ修メタルコト

六 陸軍大臣及文部大臣ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上トシテ指定シタル學校ニ付陸軍大臣ニ於テ告示シタル程度ノ課程ヲ修メタルコト

七 前各號ニ掲グル課程ニ付其ノ二以上ノ課程ヲ修メタル期間ヲ

通算シ概ネ四年以上ニ達シ其ノ間ニ於テ第一號ノ科目ニ該當ス
ル科目ニ付各同號ニ規定スル時數以上ヲ修メタルコト

第五十二條ノ三 前條ニ規定スル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ

在營期間ヲ短縮セラルベキ者ハ當該課程ノ修得ニ關シ學校長又ハ
之ニ準ズベキ者ノ署名捺印シタル證明書ヲ有スル者タルコトヲ要

ス但シ前條第四號ノ教練ヲ修メタル者ニ付テハ當該學校ニ配屬シ
將校ノ署名捺印シタルモノトス
(陸軍大臣及海軍大臣ノ命令ニ依リテ之ニ在リ) 現役將校ヲ謂フ以下同シ

第七十四條様式中青年訓練又ハ學校教練ノ程度ノ項ヲ左ノ如ク改ム

青年學校ノ課程 若ハ之ト同等以 上ト認ムル課程 又ハ學校教練ヲ 修メタル程度	何青年學校ニ於テ第何年次ノ課程ヲ修業中又ハ何中學校卒 業ノ際學校教練ノ檢定ニ合格目下何校ニ於テ引續キ修業中 ニシテ現ニ學校教練ヲ受 ル 等(青年學校 ノ課程若ハ之ト同等以上ト認ムル課程若ハ學校 教練ヲ修メザル者又ハ其ノ修得ヲ中止シタル者ニ在リテハ 其ノ旨ヲ記ス)
--	---

第九十三條第三號、同條第四號(ハ)號(四)號及第一百五十九條第二項第五號中「青年訓練所ノ訓練若ハ之ト同等以上ト認ムル訓練ヲ修了シ又ハ之ヲ修了スベキ見込アル者」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者又ハ修得スベキ見込アル者」ニ改ム

第一百十七條中「青年訓練手帳」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程修得ニ關スル證明書」ニ改ム

第一百四十條第一項第五號中「青年訓練ヲ受ケザル者」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メザル者」ニ改ム

第二百三十條第一號樣式中「青年訓練ノ概況」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程修得ノ概況」ニ、「青年訓練所在所間

「ヲ」青年學校在校間」ニ改メ「青年訓練手帳ニ記載シアラザル事項ニシテ」ヲ削ル

「第四款 青年訓練修了者及在外部隊入營者ノ特別心得」ヲ「第四款 青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル者及在外部隊入營者ノ特別心得」ニ改ム

第二百五十條第一號ヲ左ノ如ク改メ第三號及第四號ヲ削ル
第三號ヲ
及
第二號ニ改ム

一 青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定ムル程度ノ課程ヲ修得シタル者ハ其ノ證明書

附録第二様式其ノ一註記第十七號中「青年訓練修了見込ノ者」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定メ

タル程度ノ課程ヲ修得シタル者又ハ修得スベキ見込アル者」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認メラレタル訓練

ヲ修了シタル者ノ取扱ハ仍從前ノ規定ニ依ル

青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修ムル以前ニ於テ

青年訓練所若ハ昭和二年勅令第三百三十八號ニ依ル關東州及南滿洲鐵

道附屬地ニ於ケル青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認ムル訓練

ヲ受ケタル者ノ當該訓練期間及訓練時數並ニ昭和十年陸軍省令第一

號ニ依リ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ同令

公布以前ニ修得シタル者ノ當該修得期間及時數ハ之ヲ第五十二條ノ

二ニ規定スル期間及時數ニ通算ス

昭和十年三月三十一日ニ於テ年齢十五年以上ノ者ニシテ青年學校ノ
本科又ハ研究科^{ノ課程ヲ修ムル}ヲ入學スルモノ位ニ昭和十年三月三十一日ニ於テ年齢
十七年以上ノ者ニシテ實業補習學校後期卒業生及尋常小學校卒業程
度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年修了程度（高等小學校卒業
程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年修了程度其ノ他之ニ
準ズ）以上ノ學力アル者ハ第五十二條ノ二第三號又ハ第七號ニ規
定スル課程ヲ修ムルモノニ付テハ第五十二條ノ二ニ規定スル課程修得ノ程
度ニ關シ別ニ之ヲ告示ス

議用紙

內閣第三省

陸軍省

大臣

大臣

領軍番

委

議案

省號

次官

次官

名 壹第一七四〇號 徵兵終決處分取消二関スル件

史書課長了

地方局長

行政課長

軍務局長

高級副官

昭和十年六月三日

應名

金澤縣隊區 徵兵官

書記

牛島

徵券課長

主査課員

書記

書記

書記

書記

崇

榮

大甲 之 紋

總理徵兵官ヨリ金澤聯隊區徵兵官宛指令案

(第九師團司令部經由)

陸普

五月二十七日附申請ニ係ル首
題ノ件認可ス

陸普第三二八八號

昭和十年六月十日





五月三十日 石川縣經由

一七四〇

五月廿七日 經

昭和十一年五月二十七日

金澤聯隊支徴兵官

金澤聯隊支司令官 金子定

石川縣兵事官 前田芳房

總理徴兵官

陸軍大臣 林銑十郎 殿

內務大臣 後藤文夫 殿

當管内北起者別改戸籍帳本、通昭和十年、徴兵終決処分取消、申請不申請



適齡者ナルニ昭和九年誤リテ徴兵終決処分ヲ爲シ
タルヲ發見致シ二年兵役法施行令第四十一條第
二項ニ依リ右処分ヲ取消シ更ニ徴兵格査致シテ條
御認可相成ヌ也

記

石川縣津島郡和倉町字舟尾リ部七十九番

長久旺四男 大橋 士郎

大正三年十二月七日生



知收第七十五號

昭和十年五月十日

鹿島郡和倉町長

和倉縣兵事官殿

徴兵身体検査及検査関係件報告

發社兵第三。號ヲ以テ御通牒、和倉町字舟尾ノ部七九

歳久男四男 大橋士郎 在三年三月七日生ニ関ス標記ノ件也ノ

通報告候也

一、昨年本人、徴兵適齡届ヲ提出者有

二、コトヲ如何ナル事由ニ依リ受理スルヤ其間ハ願未ニ當時合係前



ノ事ト其當時ノ責任者不在ノタメ不明ナルヲ提出受理ノ兩

ノ關係者共注意ノ不足ヲ起リタルモノナリト認ム

ニ隨テ徵兵検査度檢折ニ單ニ此ノ誤謬ナルコトニ氣付カズテ通

過シタルモノナリト

於昨年ノ通達書度領ノ寫ハ別紙添付シテ

一 本年徵兵適齡届提出セリ

一 本職ノ執リタル措置

昭和十年度本町徵兵適齡者調査ニ當リ先ツ戸籍簿ニ基

キ各其年ノ生年月日ニ就テ調査シタルニ大橋士郎ハ本年適

齡ナルニ不拘昨年徵兵検査済ニ而モ補充兵登録書ニ付與サレ



タルコトナレバ其措置ニ行詰り本縣兵事課、電話ヲ以テ伺ヒシム
 雷談者ハ本年適齡者ナレバ昨年ハ鬼々角本年ハ法定ノ手
 續ヲ悉ク再檢セシムルヲ適當ナ御指示ニテ直ニ壯丁名簿
 等送付ノ手續ヲナシ本人ノ実又大橋縁久旺、此ノ要旨ヲ
 傳ヘタリ乃チ本人モ受檢スヘク準備シ居ルニ付御傳正式通
 牒了次第檢査通達書ヲ交付受檢セシムル今ノ手筈中
 たり

号

第 (號)



受領證

一、徴兵検査通達書(昭和九年七月二十一日午前六時七尾町鹿島郡自治會公會堂ニ開ク徴兵署ニ出頭スヘキ要旨ノ通達書)

右受領ス

昭和九年六月二十七日

本人 大橋 士郎

(本人ニ代リ受領シタルモノハ左ニ記名捺印スヘシ)

鹿島郡和倉町長 殿職務管掌 石川縣 池村政治 啟

石川縣

昭和十年五月十五日
 第二八二號
 發送

本

和倉所

石川縣鹿島郡瑞村字舟尾リ部七十九番地

籍

出生開ス事項原籍依リ知ルト能ハサルニ付其ノ記載ヲ省略ス (印)

明治廿五年拾月九日願濟改名 (印)

大家きよい婚姻届出明治廿五年拾月四日受附 (印)

大正九年拾月拾日前産主左助死シ依リ家督相續届出同年拾月拾四日受附 (印)

昭和九年拾月拾日行政区劃變更ニ付キ本籍欄中瑞村ヲ和倉所ニ更正 (印)

縣屬 (印)

以下余白

大正九年拾月拾日前産主左助死シ依リ家督相續届出同年拾月拾四日受附 (印)

昭和九年拾月拾日行政区劃變更ニ付キ本籍欄中瑞村ヲ和倉所ニ更正 (印)

縣屬 (印)

以下余白

前 戸 主

大橋左助

族 稱

前戸主 七 大橋左助長男

父

七 大橋左助

母

長男

大橋幾之旺

出生 明治四年拾月九日

年月日不詳石川縣羽咋郡小室村平民大家孝右門長女入籍又印
 大正九年信原於古日夫左助死之因婚姻解消印
 大正拾陸年參日於古日午信原時瑞村字舟屋り部七十九番地之於之死亡戸主大
 橋幾久旺由同月於七日受所
 以下余白

明治參拾年參月四日石川縣羽咋郡上鶴野村字小室平民大家孝右門長女入籍又

印

以下余白

石川縣羽咋郡上鶴野村字小室平民大家孝右門長女入籍又

印



石川縣羽咋郡上鶴野村字小室平民大家孝右門長女入籍又

父 大家孝右門		母 不詳	
出生 弘化四年正月参日		出生 明治拾五年参月拾日	
父 大家孝右門		母 不詳	
出生 弘化四年正月参日		出生 明治拾五年参月拾日	

大家孝右門

孝右門

大家孝右門

瑞村字舟尾り部七十九番地に於て出生父大橋幾久旺届出明治参於於於年冬月

此於於見及附入籍 (印)

出生開之筆中 出生場所及届出人資格氏名、身合登記簿に依り記載、
能及及さのト婚姻届出昭和元年冬月於於是日受附 (印)

以下余白

瑞村字舟尾り部七十九番地に於て出生父大橋幾久旺届出明治参於於於年冬月於於

是日受附入籍 (印)

出生開之筆中 出生場所及届出人資格氏名、身合登記簿に依り記載、

乙川縣鹿島郡瑞村字舟尾り部七十九番地小泉時子ト人夫婚姻届出大正於

於於是日受附入籍 (印)

以下余白

男 長

男 二

父	大橋幾久旺
母	さよい
性別	長男

陸 造

出生	明治参於年冬月於於日
----	------------

父	大橋幾久旺
母	さよい
性別	二男

陸 治

出生	明治参於年冬月於於日
----	------------

瑞村字舟尾、部七、長壽地、於子出生、父大橋、幾、久、旺、由、出、明治、四年、八月、自、受、附、父、籍、
 由、皇、朝、之、事、業、中、出、生、場、所、又、由、出、人、堂、格、氏、名、身、分、登、記、簿、依、
 石、川、縣、津、島、郡、中、島、村、部、七、由、壽、地、之、主、為、藏、長、男、舟、尾、清、一、婚、姻、由、出、昭、和、七、年、五、月、於、日、
 橫、濱、市、中、區、長、子、田、地、一、受、附、今、月、於、冬、日、送、附、
 以下余白

瑞村字舟尾、部七、長壽地、於子出生、父大橋、幾、久、旺、由、出、明治、四年、七月、於、日、受、附、父、籍、
 由、皇、朝、之、事、業、中、出、生、場、所、又、由、出、人、堂、格、氏、名、身、分、登、記、簿、依、
 以下余白

以下余白

女三

女四

父	大橋幾久旺
母	きよい
出生	三月廿二日

父	大橋幾久旺
母	きよい
出生	明治四年八月八日

父	大橋幾久旺
母	きよい
出生	三月廿二日

出生 明治四年七月廿二日



端村字舟尾リ部七十九番地ニ於テ出生父大橋幾久旺
 日受附入籍印
 出生ニ関スル事項中出生ノ場所及届出人資格氏名ニ身分登記簿ニ依リ記載
 不印

以下余白

端村字舟尾リ部七十九番地ニ於テ出生父大橋幾久旺
 以下余白
 印

男 五		男 四	
出生 大正五年 易 日	弘	出生 大正五年 拾貳月 七日	士郎
	父 大橋幾久旺 母 きよい		父 大橋幾久旺 母 きよい
	五男		四男



瑞穂屋一郡在番地於出生父大橋義三旺屋出大正八年六月七日受附入籍 (印)

以下余白

石川縣羽外郡下甘田村上棚ノ、参考在番地戸主能登芳次郎ニ女昭和九年五月廿五日大橋義三ト婚相届出同日受附 (印)

以下余白

[Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

婦				女 五					
出生	明治廿九年六月五日	あさひ	家持、 結納	長男 隆造 妻	父	能登芳次郎	出生	大正八年六月廿日	
			母	きく	母	能登芳次郎	出生	大正八年六月廿日	
			正子			父	大橋義三旺	出生	大正八年六月廿日
						母	きよこ	出生	大正八年六月廿日

(感)

瑞村字舟庵、部七十九番地、於て出生、天橋隆造、由昭和元年五月廿四日受附入籍 (印)

同日嫡出子、身分取得ス (印)
昭和元年七月廿日午後、時石川縣羽咋郡下甘田村字上棚、部三十三番地、於て死亡、主天橋茂、
久旺、由同日午後受附 (印)

以下余白

瑞村字舟庵、部七十九番地、於て出生、天橋隆造、由昭和元年八月廿日受附入籍 (印)

以下余白

孫

孫

父 大橋隆造
母 あさの
長男

出生 昭和元年五月廿八日

父 大橋隆造
母 あさの
長女

及
眞
託
雄

美
知
日
子

出生 昭和元年八月拾壹日

(感)

以下余白
 瑞村字丹庵、部七松九番地、於、出生、大橋隆造、届出、昭和八年拾月、日、受附入籍、印

以下余白
 瑞村字丹庵、部七松九番地、於、出生、大橋隆造、届出、昭和八年九月拾日、受附入籍、印

右部本力鑑、係、大橋隆造、子、也、謹、記

昭和八年九月拾日

大橋隆造、印

孫		孫	
出生 昭和八年九月拾日	林 新	母	父
	多加子	あさの	大橋隆造
		二女	二男
			大橋隆造
			芳隆
			(感)

7

(5)

昭和九年壯丁名簿

年檢 月 日查	格				體	決 終	由事濟未分處決終	兵種	地留寄		
	要 摘	運 動	關 節	咽 鼻 聽 聽 視 力 辨 視 等 喉 口 器 能 器 色 力 位							
昭和九年七月廿日		(小林)		(深山)	左 右 一、 一、 、 、 (肺結) (深山)	第二種 (小林)	第二補充兵 (窪子) (浦辺)	番抽 號籤 第	寄留 聯隊 區		
檢 查 地	部 各	精 神	言 語	體 重	胸 圍	身 長	考 備	出 生	名 及 績 卜 戶 氏 柄 ノ 主	族 稱	地 籍 本
	筋骨稍薄弱 (小林)	(小林)		五〇・八	九	壹・五	賞 罰 上	大正九年拾月七日	久住四男 大橋士郎	本人ノ 職 業 洋服縫裁職	石川縣華多郡和倉町 和倉町 舟尾リ部 七拾九番地
項 事 修 特	見 意 ノ 上 兵 選 者 檢 受 地 留 寄						力 學 歷 學	稍 讀 算 公 得	高 小 卒	金 區 本 籍 聯 隊	澤

未
青

陸地第16號
10. 6. 18

紙用議回

月一日

議案

議案

昭和十年六月七日

審案筆著

陸軍省

陸軍省
受陸
領軍
番
號省

肆第九九九號
應名
第二師管徵兵官
徵兵處分變更二關スル件

內務省

大臣 第四

委

次官 了

文書課長 了

地方局長

行政課長

陸軍省

大臣

陸軍省

委

次官

陸軍省

軍務局長

陸軍省

徵募課長

陸軍省

書記官

陸軍省

中澤

高級副官

牛島

陸軍省

主査課員

陸軍省

永久甲 了行

岩永

總理徵兵官ヨリ第二師管徵兵官宛指令案

陸普第三六〇五號

五月三十一日附仙甲第三七一號申請
ノ通認可ス

陸普第三六〇五號

昭和十年六月廿六日



徵募

六四

不
141

陸軍第九九九

仙甲第三七一號

徵兵處分變更ニ關スル件申請

第二師管徵兵官

福島縣知事伊藤武彦

同

第二師團長秦 真次

總理徵兵官

陸軍大臣林 銑十郎殿

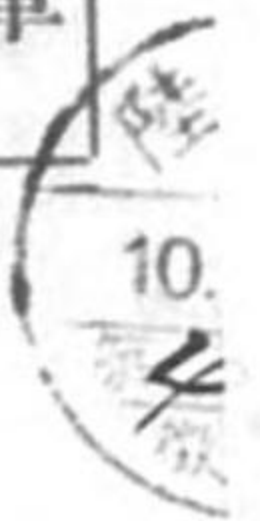
同

內務大臣後藤文夫殿

左記ノ者本年五月日本籍地ニ於テ徵兵身
體検査ヲ受檢セシ者ナシ處別紙若松中長
調書地本々ニ徵集延期願ヲ審查スルニ兵



陸軍



後法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ徵集延期
ノ資格格ヲ有スル者ニ對シテ未ダ此ノニ付票三
覽施セシ身體検査ヲ取消シ徵集延期ノ
處分ヲ爲サシメ度ニ付認可相成度

以テ大里縣縣文大娘

同 福島縣若松市大町名子屋町一六三

新野大田 松 鏡十郎 相田 榮一
大正四年七月二十日生

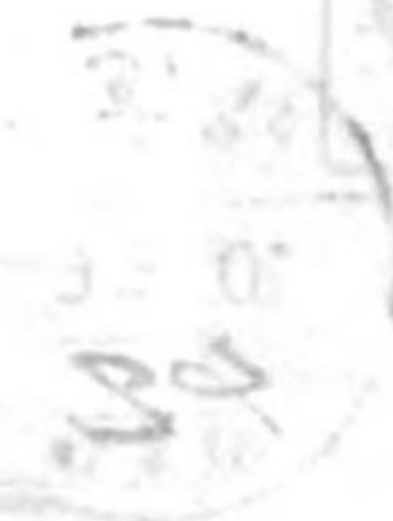
同 新二野團長 泰 真 次

同 陸肥 藤 谷 雄 白 藤 次 郎

同 新二野團長 水田 義 永 藤 乙 敷 辰 二 羅 乙 子 丹 雄

大正四年七月二十日生

巧 巧 巧



徴兵検査受検者ニ関スル調書

福島縣若松市大町名子屋町百六拾番地

五月三日 徴兵身体検査ノ結果
第一種トナル

相田 榮一

大正四年拾月式拾日 日生



右本年三月初メ徴集延期願書提出ノ處(願書ハ在學者ニアラザ
ルヲ以テ書類不備ニシテ其書類ハ入学祭表五月初旬入学ハ六月中旬
法里條ニ該當セザルヲ以テ不審ヲ懷キ本人ハ延期出願中ナリト受
檢スルヤ否ヤヲ確カシ上通達書交付方ヲ本人現住地村長ニ
囑託致候處本人ハ五月上旬祭表ニツキ検査ヲ受クヘキ旨申
出候由ニテ通達書ヲ交付シ受領証ヲ徴送相成候タノ受検
ノ手續ヲ採リタルモノニ有之候奈身体検査取消ノ上徴集延
期相成度候也

字

徵集延期願

本籍地福島縣若松市大町名子屋町一六三
現住所福島縣若松市馬場下五之町 二六

相 田 榮 一

大正四年五月二十二日生

右ハ本年五月三日若松市公會堂ニ於ケル徵兵身体検査ノ結果第一
乙種ニ決定相成候處私儀先ニ通信官吏練習所ノ入學試験
ヲ受ケルニ際ニ在學徵集延期願ヲ提出シ入學次發表ヲ待居候
處次發表達キ為メ心配致居候其因検査通達書ニ接シタル
ノ度検査後モ延期差支無キモノト誤認シ前記ノ始末ニ相成候然
ルニ五月四日通信官吏練習所ヨリ入學許可ノ通知ニ接シ候本
狀ハ徵兵身体検査済ノ者ハ全然入學ヲ許可セサル儀ニ有之候
ニ付テハ事情御洞察ノ上前記身体検査取消ノ上延期板下
ニ付テハ事情御洞察ノ上

陸軍

字

徵集延期願

本籍地福島縣若松市大町名子屋町一六三

現住所福島縣若松市馬場下五之町 二六

相日 榮 一

大正四年十月二十二日

右ハ本年五月三日若松市公會堂ニ於ケル徵兵身体検査ノ結果第
 一乙種ニ決定相成候處私儀先ニ通信官吏練習所ノ入學試験
 シ受ケルニ際ニ在學徵集延期願ヲ提出シ入學次發表ヲ待后候
 處發表達キ為メ心配致后候其因検査通達書ニ接シタル
 人受檢後无延期差支無キモノト誤認シ前記ノ始末ニ相成候然
 ルニ五月四日通信官吏練習所ヨリ入學許可ノ通知ニ接シ候本
 秋ハ徵兵身体検査済ノ者ハ全然入學ヲ許可セサル儀ニ有之候
 ニ付テハ事情御洞察ノ上前記身体検査取消ノ上延期被下
 受檢者又時限外也